

 城西大学

 城西短期大学

坂戸キャンパス
東京紀尾井町キャンパス
<https://www.josai.ac.jp>

「高麗祭」復活!

3年ぶり開催に多くの来場者

JOSAI
Sports

男子駅伝部 予選会3位で17回目の箱根本戦出場決める

女子駅伝部 全日本大学対校7位入賞 4年連続でシード権

多彩な“コラボ授業”展開

—学部横断型産学連携教育、金融教育、起業マインド育成

第55回

「高麗祭」復活!

3年ぶり開催に多くの来場者

2022
10.29
~30

——「笑顔のその先へ」(Don't worry!! Be happy!!)

コロナ禍で2年間中止となっていた「高麗祭」が復活しました。第55回高麗祭は10月29、30日の両日、「笑顔のその先へ」(Don't worry!! Be happy!!)をテーマに開かれました。

清光ホールで29日に行われた開祭式で竹野開実行委員長(経営学部4年)は「コロナ禍により幹部陣、実行委員一同、経験の乏しい中、高麗祭成功のため準備を進めて参りました。高麗祭実行委員会は例年、先輩方の意思を引き継ぎ、さらにより良いものをという意気込みで活動しております。今回高麗祭に来場して下さった皆様楽しんでいただけたことはもちろん、後輩たちにも思い出に残るようなものとなるよう願っております」と挨拶しました。

来賓祝辞で藤野陽三学長は「私にとっても学長就任以来、初めての学園祭となり、大変楽しみです。ご父母の皆様、地域の皆様に感謝して、大学生活

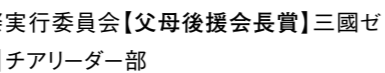
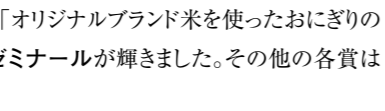
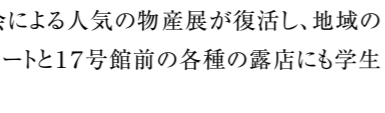
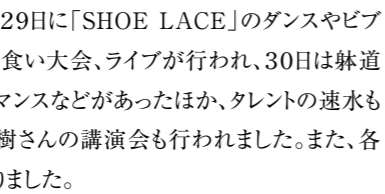
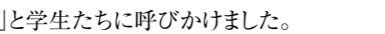
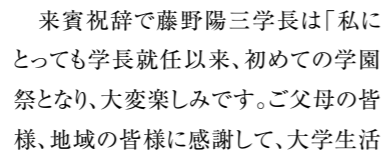
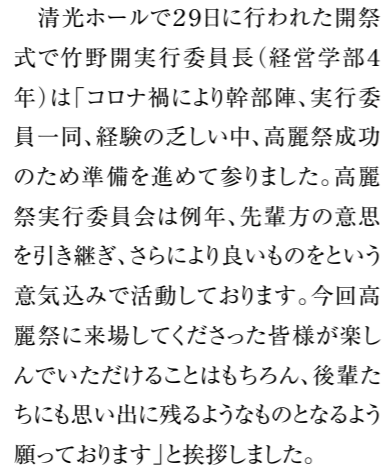
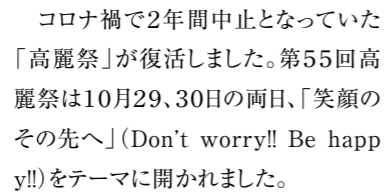
の最高の思い出になるよう3年分楽しんでください」と学生たちに呼びかけました。

2日間とも好天に恵まれ、図書館前ステージでは29日に「SHOE LACE」のダンスやピリオバトル、広報委員会ステージ、シュークリーム大食い大会、ライブが行われ、30日は鉄道部や全学応援団チアリーダー部の演舞、パフォーマンスなどがあつたほか、タレントの速水もこみちさんのトークショーや教育評論家の尾木直樹さんの講演会も行われました。また、各教室ではサークルの発表会やパフォーマンスがありました。

29日には、清光会館前で父母後援会と同窓会による人気の物産展が復活し、地域の方々から多くの来場者でにぎわいました。メインストリートと17号館前の各種の露店にも学生や家族連れが列をつくりました。

実行委員会が選ぶ今回の【高麗祭大賞】には、「オリジナルブランド米を使ったおにぎりの販売におけるマネジメントが素晴らしい」として辻ゼミナールが輝きました。その他の各賞は次の通り。

【理事長賞】天然物化学研究室【学長賞】高麗祭実行委員会【父母後援会長賞】三國ゼミナール【同窓会賞】全学応援団【学生部長賞】チアリーダー部



城西大学・城西短期大学

2022
6.24

令和4年度奨学生 第二種特待生 表彰式 大学46人、短大1人が選出

令和4年度の城西大学・城西短期大学奨学生第二種特待生の表彰式が6月24日、清光ホールで開催されました。この奨学生制度は創立者・水田三喜男先生の育英理想実現を目的に設立されたもので、人物・学業ともに優秀な学生を対象に授業料の一部を奨学金として支給しています。第二種は2年生以上が対象で、令和4年度は大学46人、短大1人が選出されました。式典には、36人が出席しました。

藤野陽三学長から、各学部と短期大学の特待生代表に楯が授与されました。藤野学長は「普段やれない何か新しいことのために有効な奨学金としてご活用ください」と祝辞。特待生代表の篠原慶さん(経営学部マネジメント総合学科)は「来年4月から社会人になりますが、社会に貢献できるような人材となるよう日々精進してまいります」と決意の言葉を述べました。



セキ・コミュニティ・スカラシップ表彰式

薬学部薬学科、薬科学科、
医療栄養学科の13人に授与

2022
7.16



セキ・コミュニティ・スカラシップ表彰式が7月16日、清光会館大会議室でありました。今年度は薬学部薬学科、薬科学科、医療栄養学科から13人の授与者が選出されました。表彰式では藤野陽三学長から各学科代表者に認定書が授与されました。授与者を代表して薬学科の北澤佐衣子さん(5年)は「奨学金をいただき薬剤師になるためにさらなる努力を惜みず、今まで以上に頑張っていきたいと思います」と決意の言葉を述べました。

株式会社セキ薬品の関善夫社長は来賓祝辞で「昔から周りのいろいろな方々にお世話になったことがありました。そのお礼の気持ちの一つとして奨学金制度があるのではないかと思います。皆さんに期待することは、社会人になってから自分さえよければよいというのではなく、人に社会に世の中にどういった人間になるべきかを考えて、頑張っていたらと思います」と授与者にエールを送りました。

この奨学金制度は株式会社セキ薬品(関伸治会長)からの寄付金によって2021年度に創設され、コミュニティ(地域社会)の健康増進を積極的に支援する薬剤師、管理栄養士及び登録販売者の育成を支援することを目的としています。

6 3J Festival 3年ぶりに対面での開催 テーマ「笑顔満祭～たのしみまSHOW」でにぎわう

2022
10.8,9



2017年から東京紀尾井町キャンパス(東京都千代田区)で開かれている「3J Festival」は、城西大学、城西国際大学、城西短期大学の3つの「J」が合同で行っている大学祭です。

6回目となった今年の合同祭は10月8、9の両日、3年ぶりに対面での開催が実現しました。「笑顔満祭～たのしみまSHOW」をテーマに3号棟で開かれ、8日は地下ステージでeスポ

ーツ企画「3Jeスポーツ」などがありました。

9日は城西国際大学の学生によるゼミ紹介のほか、研究テーマや卒論、就活、学内活動など多岐にわたるテーマの発表がありました。また、ダンスサークルなどのパフォーマンスやライブコンサート、よしもとお笑いライブが行われたのははじめ、理学部数学科の数学会による射的くじ引き・輪投げの緑日=写真=などの模擬店などもあり、多くの来場者でにぎわいました。

東京紀尾井町キャンパスでは、坂戸キャンパスと2キャンパス制となっている理学部数学科の学生約270人と短期大学ビジネス総合学科の学生約50人が学んでいます。



経営学部・石井准教授と学生部に学長賞

「ご当地ヒーローによる地域貢献活動」
「コロナ禍における対応」

2022
6.24

今年度の城西大学・城西短期大学顕彰制度の学長賞は、「ご当地ヒーローによる地域貢献活動」の経営学部・石井龍太准教授と「コロナ禍における対応」の学生部に決まりました。城西大学・城西短期大学顕彰制度は、城西大学の教育研究活動において卓越した貢献をした教職員を顕彰することによって本学組織の活性化を図ることを目的として、昨年度から設立されました。石井准教授は「イベント参加などの地域活動を推進し、学生の教育効果も大きく上がっている」と評価されました。また学生部は「2020年度から続く新型コロナウイルス感染症パンデミックの中で、非常にこまめな学生対応で感染爆発を防いでいる」ことなどが授賞理由となりました。

6月24日、表彰式が行われ、石井准教授は「地域貢献の取組みが少しずつ浸透し、参加希望のメンバーも増えています。驚いたことにメンバーの中にはこのゼミに参加したくて入学を決めた学生もいます」と喜びの声。深田一司学生課長は「コロナ禍で不自由な生活を迫られましたが、学生生活に支障が出ないよう教職員の皆さんが協力して下さり、力を貸してくれたおかげだと思っています。今年は3年ぶりに高麗祭も復活しますので、さらに皆さんの知恵と力を貸してください」と感謝の言葉を述べました。



[令和4年度]秋季学位記授与式・入学式

87人が巣立ち、20人が仲間入り——入学式開催は3年ぶり

2022
9.17

「生きがいと目標を持ち続けて」「城西精神の具現化を」(藤野学長)

「高い志でより良い社会の実現に向け貢献を」(上原理事長)

令和4年度の秋季学位記授与式と入学式が9月17日、清光ホールで執り行われました。この日、城西を巣立ったのは、大学院生や学生計87人。コロナ禍のため3年ぶりに開かれた入学式で新たに交換留学生や大連外国語大学との共同教育プログラムの学生ら留学生20人が城西の仲間入りをしました。

卒業式では藤野陽三学長から博士と各学部学科の代表者に学位記が授与されました。

また、入学式では中国、韓国、台湾、ハンガリー、ポーランド、ベトナム、ミャンマーからの留学生が紹介されました。

藤野学長は告辞でコロナ禍に触れた後、「5年後、10年後の未来は、どのような社会になるかはわかりませんが、皆さんにとって最も大事なことは、生きがいと目標を持ち続け、魅力ある一人の人間として社会にとって欠かせない存在であり続けることです」と激励。新入生に対しては英語によるメッセージで建学の精神「学問による人間形成」を紹介し、「城西大学は皆さんの活躍と輝かしい未来への準備のお手伝いをするを使命としています。留学中にこの精神を具現化していただければ幸いです」と呼びかけました。



告辞を述べる藤野陽三学長



祝辞を述べる上原明理理事長

また、上原明理理事長は祝辞で「今、求められている人材は、新しい価値を創造できるような人材です。そういう人間になるためには、学び続ける、考え続ける、そして相互理解に努めることが非常に重要です。高い志を持って、より良い社会の実現に向けて貢献していただきたい」と語りかけました。



答辞を読む小野澤賢治さん

小野澤賢治さん(経営学部)が答辞。小野澤さんは「新型コロナウイルス感染症の流行により、抜け殻のようになってしまった時期がありましたが、先生方らの熱意ある指導などによって、一段と成長することが出来ました。城西大学で得た知識や経験を生かし、広く社会に貢献し、成長したいと思っています」と決意を述べました。

また、新入生を代表して林書霈さん(別科 日本文化専修課程)が宣誓。林さんは「個々の可能性を伸ばし、夢に向かって日々精進していくことを誓います」と抱負を述べました。



宣誓を述べる林書霈さん

計40団体が参加 イオンモールのイベントに学生・教官が出展協力

2022
10.7
~9

——健康・スポーツイベント「うららか広場」

10月にイオンモール浦和美園(さいたま市)で開かれた健康・スポーツイベント「うららか広場」に学生や教官が出展協力、来場の方々と秋のひと時を過ごしました。大学近くにオープンしたイオンタウン毛呂山の開店イベントに協力したことがきっかけで、今回の「うららか広場」に出展協力することになりました。

期間中、各イベントスペースなど25カ所で計40団体が参加。経営学部による「ロコモを知ろう」は10月7、8日に開かれ、ロコモティブシンドロームについての認知アンケートや簡易診断と対策法ステップテストを行い、スクワットなどロコモ対策の運動を紹介しました。

医療栄養学科の「食育折り紙を作ってみよう!対抗戦 食育かるた大

会!」は10月8、9日に開かれ=写真、折り紙でビーマンやキノコなど折って台紙に貼ったり、チーム対抗で食育かるた大会を行ったりしました。

短期大学の教官とゼミ生

は10月8日、「カントリーロード」「上を向いて歩こう」など家族みんなが口ずさめる歌を中心に会場の皆さんと歌いました。

このほか、医療栄養学科の学生サークル「DHA(ダイエット&ヘルスアソシエーション)」が作成した健康レシビリーフレット「健康を食事から考えよう!」の配布もありました。



全学一斉の防災訓練 学生参加3年ぶり

2022
10.19

降下避難、防災ヘリコプターでの移送も実施

全学一斉の防災訓練が10月19日に行われました。学生が参加する訓練は3年ぶりでした。午後0時10分、「坂戸市で震度5強を観測する地震が発生、大学の建物や設備には大きな被害は発生せず、野外への避難は可能」との想定で訓練開始。学生たちは、教員らの指示によって机の下などに隠れ、その後、総合グラウンドに避難しました。



訓練では、23号館の7階から降下ロープを使った初の避難訓練=写真=があったほか、防災ヘリコプターによって職員が実際に移送される訓練もありました。

本学では、女子ソフトボール部を中心に剣道部や消防士を目指す学生36人で大学生機能別消防団が結成されています。ヘルメットに専用のベストを着用した団員たちは、避難誘導の協力や非常食の配布にあたりました。食品は、全学一斉防災訓練の趣旨に賛同いただいた企業(オタフクソース様、東洋水産様ほか)から寄贈されたものです。

Amazon物流拠点で地元食材メニューを限定販売

卒業生との縁でコラボが実現 3日間で600食を販売

2022
7.15
~17



地元食材を使用したメニューを医療栄養学科の学生と大学院生が考案。地域貢献を目的に大学近くのAmazon物流拠点「坂戸フルフィルメントセンター(FC)」(坂戸市西インター)で7月15~17日に限定販売しました。同FCの食堂を運営する会社に医療栄養学科の卒業生が管理栄養士として働いていることが縁で、今回のコラボレーションが実現しました。

今回の「コラボイベント」には、学生と大学院生5人が参加=写真。試食会を経て最終的に考案したメニューは、「桂木ゆず油淋鶏」「コーゲンとりすき焼き」「醤油カレーうどん」「コーゲン牛すじカレー」「冷や

し唐揚げシャケ茶漬け」「サラダうどん」「ビーツポタージュ冷製パスタ」の7品。「夏の元気メニュー」と銘打ったメニューには、同科で研究する食材として、コーゲンやビーツ、大学近隣地域の毛呂山町のブランドゆず「桂木ゆず」、坂戸市の弓削多醤油株式会社の醤油などを使用して、健康的な料理に仕上げました。

学生や大学院は、それぞれの料理のポスターも自作してPR。3日間で販売した料理は約600食。同FCで働く多くの方々に購入いただき、好評を博しました。

TJUPに川越市などが新たに加盟

2022
7.19

大学・自治体・企業の連携範囲さらに拡大

川越市などと埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)が包括協定を締結しました。TJUPは、埼玉県東武東上線と西武線沿線の大学・短期大学、自治体、企業が連携するプラットフォームで、「多様な高等教育の提供」「生活しやすい地域づくり」「地域産業の活性化」を掲げて4年前に誕生しました。協定を締結する企業・団体は、本学が連携協定を結ぶ株式会社セキ薬品をはじめ、飯能信用金庫、イオンタウン株式会社など13団体を数えます。また自治体会員も23自治体が加盟して年々活動範囲を拡大しています。新たに川越市、所沢市、和

光市、(株)地域デザインラボさいたまが加盟することになり、川越市については7月19日に同市役所で包括協定締結式が開催されました。締結式には、川越市の川谷善明市長をはじめ、東邦音楽大学の三室戸東光学長、本学の藤野陽三学長、高尾浩一地域連携センター所長ら関係者が出席しました。

川谷市長は「人生100年時代を迎え、生涯学習の大切さが叫ばれる中、TJUPとの連携は市民生活の満足度の向上につながると期待しています」と挨拶されました。藤野学長は「大学として市民の方々にどんな貢献ができるか、大学としての腕の見せどころだと思います。学生にも参加してもらい、魅力ある街づくりに貢献したいと思います」と語りました。

公開講座「ポストコロナ社会を生きぬくために」

2022
9.20
10.6.12

本学など主催、TJUP共催 3回シリーズで開講

本学では教育研究の成果を広く地域に開放し、高度化、多様化する地域住民の学習意欲と地域社会のニーズに応えるために公開講座を開講しています。

今年度のテーマは「ポストコロナ社会を生きぬくために」で、城西大学と城西短期大学、日本医療科学大学が主催、埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)が共催しました。3回シリーズの1回目となる「ポストコロナにおける地域介護人材について」が9月20日、清光ホールで開かれました。

白幡晶短期大学副学長が開講の挨拶をし、日本医療科学大学の徳永千尋教授からテーマについての趣旨説明がありました。現代政

策学部の于洋教授の「介護保険制度における課題と今後の展望」▷株式会社リエイの小石川高士人財開発部長の「介護現場から見る外国人介護人材の活用と課題」▷日本医療科学大学保健医療学部の小林毅教授の「介護ロボットの普及促進と介護人材確保の課題」▷短期大学の田淵敬光准教授の「外国人介護人材の確保と教育—地域連携受け入れ構想—」と4講師による専門分野からの報告の後、全体討論が行われました。

10月6日の2回目は語学教育センターの伊東裕起助教による「英国・アイルランド文学とパンデミック:ペストとスペイン風邪を中心に」、10月12日の3回目は理学部化学科の森田勇人教授による「新型コロナウイルスとは?~彼を知り己を知れば百戦殆からず~」をタイトルにした講座が開かれました。

6市町圏域住民交流

経済学部勝浦ゼミ「レインボーフェスティバル」に運営協力

2022
10.1

経済学部勝浦ゼミナールが運営協力した「レインボーフェスティバル~世界が川島(ここ)に~」が10月1日、川島町のカインズモールでにぎやかに開催されました。レインボー交流事業は、埼玉県川越都市圏まちづくり協議会(通称:レインボー協議会)が、6市町の圏域住民交流の一環として実施しています。

藤野陽三学長からも挨拶があり、「今日のイベントはレインボーフェスティバルですが、レインボーブリッジを造ったのは私です。私もいろいろと見てまわらせていただきます」と述べました。会場では6市町のご当

地グルメや世界各国の料理が楽しめたほか、ステージでは様々な国の音楽やダンスなどが披露されました。また、経営学部石井ゼミナールも協力。「ローカルヒーローショー」で子どもたちの目をくぎ付けにし、大盛況でステージを終えました。

勝浦ゼミナールは、コロナ禍の前に同趣旨のイベント「つるがしマルシェ~若葉インターナショナルフェスティバル」を4回にわたって実施していました。今回の「レインボーフェスティバル~世界が川島(ここ)に~」は、新たな枠組みとしての再スタートとなりました。

学部横断型産学連携教育プログラム

小鹿野町の黄金かぼすで「ようかん」開発

薬学部医療栄養学科・経営学部の学生がコラボ

薬学部医療栄養学科と経営学部の学生による、地域食材を利用した食品の開発と商品パッケージの作成を通じて連携する教育プログラムが進行中です。本学では例を見なかった、商品づくり・モノづくりを軸とした学部横断型産学連携教育プログラム。具体的には、医療栄養学科の学生が小鹿野町で採れる黄金かぼすを利用した「ようかん」を開発。経営学部の学生がパッケージデザインとブランディングを担当して、生産・販売に結び付けます。医療栄養学科では、コラーゲンペプチドに着目した「JOSAI コラーゲンようかん」(3味)を手掛けており、新たに黄金かぼすの「ようかん」が加わることになります。



医療栄養学科の伊東順太助教の研究室(病態解析学)と経営学部の田部溪哉准教授の研究室(広告理論)とによるコラボレーション＝写真。医療栄養学科の学生は、小鹿野町役場産業振興課への協力依頼に加え、「ようかん」の製作依頼から商談、スケジュール調整を行います。また、田部研究室の学生は、これまで坂戸市のチラシ制作などを通じて培ってきたデザイン技術を生かし、新商品のパッケージデザインを手掛けます。さらにマーケティング効果の測定も行う予定です。「ようかん」の製作は、「コラーゲンようかん」でも協賛いただいた株式会社木下製菓(さいたま市大宮区)に依頼しました。

経済学部特殊講義Ⅱ、Ⅲ 金融教育講座、地域金融機関についての講演を開催

2022
6.8
7.14

経済学部で6月8日、特殊講義Ⅲの特別講義が開催されました。特殊講義Ⅲは、財務省関東財務局による寄付講座で、関東財務局金融監督第5課の外谷洋登氏による「成年年齢引下げについて」と、日本証券業協会金融・証券インストラクターの阪尾進氏による「社会に出る前に知っておきたいマネーの基礎知識」をテーマにした講義がありました。外谷氏は「自ら判断し社会に積極的に参加することが期待されている」などと学生に呼びかけました。学生にとっても関心が高い金融教育講座とあっ



て、参加学生たちは熱心に耳を傾けていました。また7月14日には、飯能信用金庫の関谷和昌会長による特殊講義Ⅱの特別講演がありました＝写真。飯能信用金庫による寄付講座「地域金融機関のトクデイ&フューチャー」で、飯能信用金庫の実務家講師たちが授業を担当しています。当日の特別講演で関谷会長は最近の世界と日本の経済・金融情勢と今後の見通し、地域金融機関としての使命と課題などについて講演。これからの金融業界や飯能信用金庫が求める人材像についても貴重なお話をいただきました。

2+2学生、交換留学生の受け入れ 3年ぶり本格化

中国、台湾、ハンガリー、ポーランド、韓国から来学

コロナ禍のため先送りとなっていた共同教育プログラム2+2の学生(中国)と交換留学生の本格的な受け入れが今年度から3年ぶりに始まりました。

本学では、大連外国語大学と共同教育プログラム2+2を実施しています。共同教育プログラム2+2の学生は2020年度、2021年度も入学はしましたが、一部の学生を除きコロナ禍で入国ができなかったため、オンラインで授業を受けていました。今年度前期にようやく来日が実現して、坂戸キャンパスで学んでいます。秋は4人が入学しました。

また、交換留学生の受け入れは、2021年度の建陽大学(韓国)の1人を除き、2019年度の秋入学が最後でした。今年度の内訳は以下の通りです。

淡江大学(台湾)＝4人▷ブダペスト商科大学(ハンガリー)＝1人▷エトヴェシュ・ロラード大学(ハンガリー)＝3人▷デブレツェン大学(ハンガリー)＝1人▷ワルシャワ大学(ポーランド)＝1人▷建陽大学＝2人



藤野学長にあいさつする交換留学生たち(左)

経済学部と経営学部が“コラボ授業”

起業マインドを育成し会社設立時の実務知識を修得

今年度、経済学部と経営学部による“コラボ授業”が実現しました。大学生の起業マインドを育成し、実際に会社を設立した際に必要な最低限の実務知識を修得するための共同授業を試行的に始めました。昨年、「経済学部の学生にもスタートアップ(起業)マインドを養う講座を作りたい」という李熙錫学部長の願いが、経営学部長だった杉岡直人教授に伝わったことがきっかけ。今春から、経済学部の教室でオムニバス方式によって経営学部の先生方や外部講師を毎週招く形で

共同授業(全14回の特殊講義)が実現しました。

講師陣は多彩な顔ぶれでした。経営学部の経営戦略論担当の杉岡教授のほか、ビジネス・プランニングを指導されている経営学部の杉本理教授も講義。また、公認会計士・税理士で経済学部非常勤講師の小山修平先生には、会社立ち上げ時の登記や青色申告、決算手続などの講義をお願いしました。資金調達編は本講座コーディネーター役の増山隆教授。外部講師の石川共平先生には社員採用や人事管理上の留意点、陶磁器製造業の伊藤祐輝先生には家業を継ぐ場合の事例研究を、学生と一緒にアクティブ・ラーニング方式で行いました。今後、この共同授業の企画はさらに発展させていく方針とのことです。

現代政策学部「障害者福祉論A」で講演会開催

「障害者スポーツを通して障害理解を深める」

——講師に共同通信・柴田氏 2大会連続でパラリンピック取材

2022
6.3

現代政策学部の真殿仁美准教授の「障害者福祉論A」で講演会「障害者スポーツを通して障害理解を深める」を6月3日に開きました。学部学生支援委員会との共催で、全学障がい学生支援委員会が後援しました。従来に増して深い障害理解が求められている中、学生の関心が高いスポーツの側面から障害への理解を深めてもらおうと企画されました。

2大会連続でパラリンピック取材の経験のある共同通信社外部の柴田智也氏を講師に招きました。柴田氏は「パラリンピックに見る障がい者スポーツ」をテーマに講演＝写真。「2012年ロンドンパラリンピック大会は、参加国の数や270万枚ものチケットが完売をしたことで史上最高のパラリンピックと言われています」と紹介。「その大きな後押しをしたのは教育プログラムであり、長い時間をかけて子どもたちが障がい者スポーツに触れて学び、障がい者への理解を深めていったことから、子どもを中心として社会が変わっていききました」と述べました。また、東京パラリンピック(2021年8月～9月)での選手の活躍や競技種目の特徴などにも触れ、学生たちは真剣なまなざしで聴き入っていました。



東京紀尾井町キャンパス

元環境大臣中川雅治氏が特別講義

2022
7.21

オンラインで坂戸キャンパスでも

東京紀尾井町キャンパスで7月21日、元環境大臣の中川雅治氏による特別講義「環境政策について」がありました。官僚時代に環境省事務次官(2003～04年)、国会議員として環境大臣を務めた(2017～18年)立場から、京都議定書やパリ協定の採択・発効・実施にいたる国内外での交渉の経緯を様々なエピソードを交えてお話しいただきました＝写真。坂戸キャンパスの水田三喜男記念館でもオンラインで結び、現代政策学部の学生約50人が熱心に耳を傾けました。



講義に先立ち、上原明理事長が中川氏と自身の縁について紹介するとともに同日、中川氏に城西大学特命教授の称号を付与したことを報告しました。中川氏は地球温暖化の仕組みから丁寧に説き、国連の「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)第2作業部会が今年3月、第6次報告書で「人間が原因の地球温暖化が広範囲に悪影響を与えている」と初めて断定したことの重大性を説明しました。

また2020年に当時の菅義偉首相が「2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする」という「2050年カーボンニュートラル」を掲げたことにも触れ、「これによって政府内も産業界も空気がガラッと変わり、この目標に向けて動き出した」と振り返りました。中川氏は学生らの質問にも丁寧に答えられました。

中国語スピーチコンテスト

仲田さん、清水さんが出場(大学生部門)し、共に受賞

2022
10.16

埼玉県日本中国友好協会主催の第43回埼玉県中国語スピーチコンテストが10月16日、さいたま市の浦和コミュニティセンターで開かれ、本学薬学部6年の仲田尚さんと経営学部2年の清水文生さんが大学生部門に出場しました。清水さんは「小乒乓球 长长中文縁(卓球でつないだ中国語との縁)」とのタイトルで、小学生の時から続けている卓球を通して中国語の学習に励んだことを話し、埼玉県国際交流協会理事長賞を受賞しました。また、仲田さんは「感謝十五年前の私(15年前の私に感謝を込めて)」とのタイトルで、小学4年生の時から始めた中国語学習のきっかけや中国語の学習を通じて得た多くの友人や人生経験、失敗を恐れずにチャレンジする勇気などについて語り、中国大使館賞を受賞しました。



清水文生さん



仲田尚さん

酒田南高校と包括連携協定を締結

文武両道、グローバル教育にも注力する名門校

2022
5.20

5月20日、酒田南高等学校(山形県酒田市)と包括連携に関する基本協定書を締結しました。酒田南高等学校は文武両道の名門校として知られ、野球やサッカー、陸上などの全国大会の常連校でもあります。また、最近では文部科学省の「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」にも複数名が採用されるなどグローバル教育にも力を入れています。酒田南高等学校で行われた締結式には、



本学から藤野陽三学長らが出席。酒田南高等学校からは齋藤善明理事長、齋藤法明校長先生、池田信一法人本部長らが参加されました＝写真。協定書締結の後、藤野学長は「基本協定書締結により本学と酒田南高等学校との交流が今まで以上に活発になるよう期待しています」と挨拶。齋藤校長先生は「本協定により、双方の教育内容の一層の充実と生徒及び学生の資質向上につながることを望んでいます」と話されました。

高校との包括連携は、浜松開誠館高等学校、仙台育英学園高等学校、横浜創英中等高等学校などに続き11校目となりました。

男子駅伝部

箱根駅伝への出場決める 2年ぶり17回目

2022
10.15

ヴィクター選手らが快走し予選会で総合3位

第99回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)予選会は10月15日、東京都立川市で行われ、男子駅伝部は10時間42分9秒で総合3位となり、2年ぶり17回目の本戦出場を決めました。一昨年の3位と同順位で、昨年の15位から躍進しました。来年1月2、3日の本戦では、シード復活を目指して「箱根路」に臨みます。

コロナ禍のため、昨年まで2年間は無観客で陸上自衛隊立川駐屯地の滑走路を周回するコースで行われてきました。今年は3年ぶりに駐屯地から市街地を経て国営昭和記念公園に至るハーフマラソン(21.0975km)コースで行われ、各校10~12人が出走し上位10人の合計タイムで競いました。

男子駅伝部初の留学生のヴィクター・キムタイ選手(経営1)が全体



集団で力走する選手たち=月刊陸上競技提供

全体6位でゴールするヴィクター・キムタイ選手=月刊陸上競技提供

6位と快走を見せたのをはじめ、同じルーキーの斎藤将也選手(経営1)からチーム7番目の平林樹選手(経営2)までが二けた台の力走でチームを押し上げました。5km、10km地点の通過順位は2位と快調に飛ばし、10km、17.4km地点では4位で通過したものの、最後の頑張り

で3位に順位を上げました。榑部静二監督は「例年、チームは暑さに苦しめられており、それらに対応する能力が求められていました。選手たちは終始上位で進み、懸念されていた公園内でも全く怯むことなく走りきることができました。昨年の悔しさを忘れずにトレーニングに励んだことで、想像以上に心身の成長が進んでいることが確認できました。この勢いをそのままに次の100回大会への切符でもあるシード権獲得を目指していきます」と語っています。



本戦出場を決めて笑顔の選手たち

個人順位

順位	名前(学部学年)	記録
6位	ヴィクター・キムタイ(経営1)	1時間02分21秒
27位	斎藤 将也(経営1)	1時間03分18秒
59位	野村 颯斗(経営3)	1時間04分05秒
61位	小島 拓(経営4)	1時間04分05秒
65位	山本 唯翔(経営3)	1時間04分13秒
75位	山中 秀真(経営3)	1時間04分26秒
79位	平林 樹(経営2)	1時間04分27秒
128位	大沼良太郎(経営1)	1時間05分01秒
129位	桜井 優我(経営1)	1時間05分03秒
139位	久保出雄太(経営2)	1時間05分10秒

女子駅伝部

全日本大学対校7位入賞

4年連続でシード権獲得 富士山女子駅伝出場も決める

2022
10.30

第40回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)は10月30日、宮城県仙台市で6区間38.1kmのコースで開かれ、28年連続29回目の出場的女子駅伝部は2時間8分31秒で7位入賞を果たしました。目標の3位には届きませんでしたが、2019年から6、7、7位と入賞を継続しており、4年連続で来年のシード権(8位以内)を獲得しました。併せて12月30日に静岡県で開催される全日本大学女子選抜駅伝競走(富士山女子駅伝)への出場を決めました。

1区は昨年経験した木村桜華選手(現代政策2)。木村選手は区間6位と力走し、途中棄権に終わった9月の関東大学女子駅伝のリベンジを果たしました。昨年のインターハイ1500m日本人2位の兼子心晴選手(経営1)が区間2位の快走で順位を3つ上げて3区の伊藤柚葉選手(経営3)に繋げました。関東大会区間賞を獲得した伊藤選手は順位を3つ落としたものの、踏ん張って福嶋摩耶選手(経営4)に襷リレー。福嶋選手は順位を守って最長区間の5区に繋げました。エース区間に抜擢されたのは、ロードに強く関東大会でも区間賞を獲得したルーキーの高橋葵選手(経営1)。高橋選手は順位を保持してアンカーの藤村華純主将(経営4)に襷を託しました。藤村主将は粘りの走りを見せ、7位でゴールを駆け抜けました。

赤羽周平監督は「3位入賞という目標に全力で挑みましたが、残念ながら目標を達成することができず、本当に悔しい7位です。目標を達成させてあげることができず、監督としての力不足を痛感しています。



1区-木村桜華選手から2区-兼子心晴選手に襷リレー

4区-福嶋摩耶選手 5区-高橋葵選手

(途中棄権だった)関東大学女子駅伝後は、この試練をチーム全員で乗り越えようと、気持ちを一つに

して一生懸命に取り組んできました。選手たちは調子の良さを感じてスタートラインに立つことができていました。ですから、この結果は単純に「力負け」です。多くの収穫もありましたが、表彰台を狙うにはまだまだ力が不足していたことを痛感させられたレースでした。全日本大学女子選抜駅伝では、今回の結果と自分たちの今の力を冷静に受け止めた上で、どんな目標とするのか。その目標達成のために、残りの期間で何をどうすべきなのか。学生たちとともに考え、話し合い、目標に向かって前向きな気持ちで歩みを進めたいと考えています」と語りました。



レース後、笑顔の女子駅伝部

	名前(学部学年)	記録(区間順位)	通過順位
1区(6.6km)	木村 桜華(現代政策2)	21分46秒(6位)	6位
2区(3.9km)	兼子 心晴(経営1)	12分28秒(2位)	3位
3区(6.9km)	伊藤 柚葉(経営3)	23分26秒(10位)	6位
4区(4.8km)	福嶋 摩耶(経営4)	16分25秒(5位)	6位
5区(9.2km)	高橋 葵(経営1)	30分54秒(7位)	6位
6区(6.7km)	藤村 華純(経営4)	23分32秒(11位)	7位

硬式野球部

首都大学秋季リーグ2部で優勝 4季ぶり15回目

2022
9.10.11

「それぞれがこだわりを持ち、やり切った」(村上監督)

首都大学野球秋季2部リーグで、硬式野球部が2020年秋以来、4季ぶり15回目のリーグ優勝を果たしました。11月12~14日に行われた明治学院大学との1部2部入替戦は1勝2敗で、惜しくも1部リーグ復帰はなりませんでした。

硬式野球部は秋季大会、9月4日の足利大学戦から10月15日の明星大学戦まで8連勝で、10月16日の最終戦、帝京大学戦を待たずに優勝を決めました。「負けないチーム」を掲げて戦ってきました。中川響(経営学部3年)、藺雄斗(同4年)の両投手を軸に粘り強く失点の少な



(前列中央は藤野学長)

い試合を作ってきました。攻撃陣は、古家武(同4年)、片平吉信(同3年)、松川玲央(同1年)の各選手が、4割以上の高打率を残すなど1番から9番まで切れ目のない打線で勝ち星を重ねてきました。2部優勝について村上文敏監督は「優勝は部員全員が挑んだことです。防御率1点台の投手陣と打率3割台の攻撃陣はもちろん、それを支えたマネージャー、補助や偵察の部員たち、それぞれがこだわりを持ち、やり切ってくれました。入替戦はもう一度原点に立ち返り、オール城西の総力戦で挑みたい」と語っていました。

OBの2選手が世界陸上に出場 3000m障害・山口選手、4x100mリレー・鈴木選手

2022
7.15~24

7月15日から24日にかけてアメリカ・オレゴンで開催された「オレゴン2022世界陸上競技選手権大会」の日本代表として卒業生の山口浩勢選手(愛三工業)=2014年・経営学部卒と鈴木涼太選手(スズキ)=2022年・経営学部卒が

出場しました。3000m障害の山口選手は昨年の東京オリンピックに続く日本代表。6月に行われた日本選手権の3000m障害で3位表彰台に上がり、代表に決まりました。レースでは残念ながら決勝進出はな

りませんでした。4x100mリレー代表の鈴木選手は日本選手権の100mで5位、200mは3位となり、オリンピック、世界陸上を通して初の日本代表を射止めました。レースでは第二走者を務めました。決勝進出はできませんでした。



山口浩勢選手

鈴木涼太選手

サッカー部

“おもてなしの心”で 地域の子どもたちを指導

2022
8.21

—「Josai Univ Football Festival」

サッカー部が8月21日、地域の子どもたちに城西サッカー部を知ってもらうとともにサッカーに親しんでもらおうと、「JOSAI SPORTS FIELD」でイベント「Josai Univ Football Festival」を開きました。サッカー部内の地域貢献部局が企画・運営の中心となって準備を進めました。

当日は、午前中に小学校1~2年生76人、午後は3~4年生53人が参加し、部員104人が“おもてなしの心”を持って指導=写真。子どもたちの元気な声がサッカー場に響き渡りました。



イベントに合わせて、株式会社セキ薬品様からボカリスエットとSOYJOYを参加者全員にご提供いただきました。また、ミズノ株式会社様からは、ピプスとキックターゲットの提供とサッカーシューズの試履会も実施していただきました。サッカー部では今後も地域の方々に喜んでいただけるイベントを企画していくことにしています。

ゴルフ部・女子チーム

関東女子大学対抗戦に初参戦 「これからは女子ゴルフの時代」 「初心者も歓迎」

2022
5.27~28
9.13~14

ゴルフ部の女子チームが創部以来、初めて今年度から関東女子大学対抗戦に参加しています。Eブロックの春季大会は5月27、28日、群馬県のゴルフ場で開かれ、女子チームは8チーム中、7位でした。また9月13、14日に同県の別のゴルフ場で開かれた秋季大会では11チーム中7位となりました。

両大会とも、野崎里咲さん(経済学部3年)、山室萌夏さん(経済学部2年)、菅原梨々華さん(経営学部1年)の3人が出場し、2日間にわたり上位2人の合計スコアで順位を競いました。会場が違うとはいえ、秋季大会は春季大会よりトータルスコアで17打も改善しました。特に3年生の野崎さんは、2日間とも70台の好スコアでした。

現在の女子部員は3人に加え、中国からの留学生で経営学研究科の謝望梅さんの計4人。城西大学大学院でゴルフ部に入学したのは、謝さんが初めてです。女子チームの本格始動について、部長の増山隆教授(経済学部)は「これからは女子ゴルフの時代です」とコメント。主将の渡辺真太郎さん(経営学部4年)は「初心者も歓迎します」と仲間を募っています。



左から野崎里咲さん、菅原梨々華さん、山室萌夏さん、謝望梅さん

図書館だより

学生アドバイザー企画 ～城西大学水田記念図書館の七夕～

6月23日～7月7日に3年ぶりの学生アドバイザー企画「城西大学水田記念図書館の七夕」を実施しました＝写真。図書館学生アドバイザーが図書館入り口に設置した筐には、年に一度の特別な日に向けてたくさんの願い事が込められた色とりどりの短冊が飾られました。同時にアドバイザーが「七夕」をテーマに選んだ本も紹介POPと一緒に展示しました＝URL①。



日高市立図書館主催 「ビブリオバトル2022 夏の陣」に城西大学学生 が出演しました

8月7日に日高市立図書館で毎年開催される「ビブリオバトル2022夏の陣」に図書館学生アドバイザーの外岡渉さん(経済学部4年)が出演しました＝写真。今回は日高市内の中学生のほか、高校生、大学生、一般の合計8名がバトルとして参戦しました。およそ50名の観戦者が見守る中、「2021冬の陣」に続き2回目の出場となる外岡さんの発表本は『今夜、世界からこの恋が消えても』(一条岬著)。受賞は逃しましたが最初の発表者というプレッシャーの中、大学生らしく落ち着いた口調で語りかける様子に観戦者も思わず聞き入っていました＝URL②。



※ 当館は、日高市立図書館と提携し、相互協力を図っています

学生アドバイザー主催第23回ライブラリーラウンジ 「ゲームで学ぼうSDGs」を開催しました

7月8日に学生アドバイザー主催の第23回ライブラリーラウンジを開催し、22名が参加しました＝写真。今回はSDGsに関連した様々な問題の解決策を探るカードゲーム“X(クロス)”を、異なる学部の学生、教員、図書館地域アドバイザーが入り混じった5グループに分かれ、合計3回のゲームを行いました。参加者は、柔軟な発想や新しい視点でディスカッションを行い、各回の最後にはグループごとに導き出した解決方法を発表しました。参加者アンケートでは、全員から「満足」の回答のほか、「短大の方、留学生の方、地域の方と交流することができ、とても有意義でした」「普段はあまり考えられないような観点を話し合っ内容整理していくというのは少し難しかったですが、大変楽しかったです」という声もあったことから、対面形式で交流する楽しさや、ディスカッションで知識の幅を広げる喜びを体験できたようです＝URL③。



経済学部・神崎直美ゼミ連携「Let's Go高麗神社」を実施しました

図書館1階ブラウジングコーナーにて、経済学部・神崎直美教授の「神崎ゼミナールII」(4年生)とのコラボ企画として高麗神社(埼玉県日高市)を題材としたグループワークの成果物と使用した参考文献の展示を行いました(展示図書一覧＝URL④)。ゼミの様子を紹介する動画や学生が作成した「見学のしおり」のパネル展示のほか、ゼミ成果物のパンフレット、学生が撮影した「一押し写真」のポストカードに加え、企画内容へのメッセージや、「いいね!」シールを貼ったりできるパネルも準備されました＝写真。展示

からは文献で得た知識を現地で確認することでより深い学びにつながった様子が伝わってきました。今回、初の試みとなった図書館とゼミナールとの合同企画展示は今後も継続します。第二弾もお楽しみに。



化石割り体験ワークショップ

2021年度に開催し好評だった化石割り体験ワークショップを今年も開催することとなり、引き続き理学部化学科の宮田真也助教(城西大学水田記念博物館大石化石ギャラリー学芸員)を講師に迎えて、学内向けを6月15日に、学外向けを7月30日に行いました。
「化石とはそもそも何か?」といった化石入門の講義から始まり、その後発掘調査の一部である化石割りを実際に体験していただきました。両日ともに、学内そして学外から多くの方にご参加いただき、化石の知識を身につけつつ、石を割って化石を取り出す作業に熱心に取り組んでいただきました。



美術館通信

水田美術館は現在長期休館中ですが、感染症対策を講じたうえで各種のイベント、ガイダンスを行いました。

美術館ガイダンス

長期休館中のため、授業での展覧会見学対応の代わりに、美術館と主なコレクションの浮世絵について学ぶ機会となるよう美術館ガイダンスを実施しました。留学生が多く受講する授業においては、所蔵の水田コレクションの浮世絵を通じて、自己美意識を高めるための計3回のガイダンスを行いました。第1回は水田コレクションで浮世絵の歴史を概観。第2回は彫と摺の木版画技術を紹介した上で、摺り体験コーナーで摺りの工程を実際に体験。第3回は浮世絵複製版を用いた鑑賞ワークショップと、アートカードを用いた簡単なゲームをグループワークとして行いました。展覧会見学とは異なる形での学生教育への支援活動となりました。
■ https://www.josai.ac.jp/~museum/evet_info/index_2022_6.html

浮世絵講座、 浮世絵版画の 摺り実演会

浮世絵所蔵館として浮世絵の魅力をお伝えし、浮世絵を身近に感じていただくため、浮世絵講座と浮世絵版画の摺り実演会を開催しました。
浮世絵講座は、浮世絵の主要テーマ「役者絵」「美人画」「名所絵・風景画」「武者絵」「戯画」「おもちゃ絵」について各専門家の先生をお招きしてお話いただくもので、9月から12月まで水田三喜男記念館講堂を会場にして計5回開催します。また、各講座テーマに合わせたミニワークショップのコーナーも設置し、参加者にお楽しみいただいています。
第1回の「役者絵」を9月3日に、第2回の「名所絵・風景画」を10月1日に、同8日に第3回の「美人画」を行いました。いずれも会場・オンラインでご参加いただきました。
摺り実演会は9月24日に開催。公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団に特別にご協力いただき、財団スタッフの解説のもと、浮世絵版画の制作において重要な工程のひとつである摺りを摺師に披露していただきました。



浮世絵講座

役者絵
【日時】2022年9月3日 13時30分～15時
【講師】藤澤茜氏(神奈川大学国際日本学部准教授、国際浮世絵学会常任理事)
【演題】「役者絵の楽しみ—江戸の美男とプロマイド—」



名所絵・風景画

【日時】2022年10月1日13時30分～15時
【講師】大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授、町田市立国際版画美術館館長)
【演題】「名所絵の要件—広重作品から考える—」

美人画

【日時】2022年10月8日13時30分～15時
【講師】藤澤茜氏(國學院大学教授、国際浮世絵学会常任理事)
【演題】「美人画に恋して—ものがたる浮世絵—」
■ https://www.josai.ac.jp/~museum/evet_info/index_2022_7.html

浮世絵版画の摺り実演会

【日時】2022年9月24日 13時30分～15時
【講師】公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 摺師=長沼翔太氏 解説=杉本奈緒氏
■ https://www.josai.ac.jp/~museum/evet_info/index_2022_9.html



最新情報は
HP、Twitterで
ご確認ください



水田美術館 HP 水田美術館 Twitter